

日本語指導が必要な外国人児童生徒に対して、日本人と外国人の子供が共に学ぶ環境を創出するため、公立小中学校に日本語指導が必要な外国人児童生徒を円滑に受け入れるための指導体制の強化を図る。

帰国・外国人児童生徒連絡協議会（４月） オンライン形式

- 外国人児童生徒教育の関係者が一堂に会し、教育環境の充実に向けた検討や情報共有、協議や交流を通してネットワーク構築を行う。
- 参加者：小中高管理職、県・市町村担当者、国際交流協会等
- 講演：筑波大学 澤田浩子 准教授（予定）
- 内容：行政説明（県教育庁及び多文化共生担当部局、県国際交流協会）
支援ネットワーク構築に向けたグループ協議等

茨城県地域日本語教育の体制づくりに係る総合調整会議 国際交流・協力ネットワーク会議（県国際交流協会）

オンライン学習による日本語初期指導カリキュラム開発・検証のための基礎研究 委託先：筑波大学

オンライン学習による日本語初期指導カリキュラム開発・検証のための基礎研究

- <対象校> 37校（対象児童生徒：53人）＊日本語指導教室非設置校
- <日本語サポーター> 筑波大学日本語・日本文化学類 学生 約40人
 - ・「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」を用いたオンラインによる日本語力測定
 - ・日本語指導のための履修科目設定
外国人児童生徒支援研究（1単位）
＋外国人児童生徒支援実習Ⅰ・Ⅱ（3単位）
 - ・オンライン学習カリキュラムのデータ、DLAの結果に基づく習熟度別学習、学習ポートフォリオの共有システムの設定
 - ・HPやリーフレット等で成果を発信

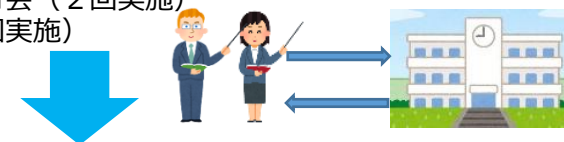


オンライングループ支援

外国人児童生徒日本語教育支援事業

日本語指導教室の設置及びブラジル人学校への支援・交流 （常総市モデル）

- 日本語指導クラスの設置
 - ・習熟度に応じた日本語指導（常総市立水海道小学校、豊岡小学校、水海道中学校、水海道西中学校）
日本人教師 8人 支援員 8人
小学校2時間 中学校3時間実施 ※1日最大
- ブラジル人学校との交流
 - ・日本人教員と支援員の訪問による日本語授業（12回実施）
- プロジェクト会議
 - ・教材作成、授業検討会（2回実施）
 - ・相互授業参観（2回実施）



他地域への拡充

日本語支援の推進

- 対面（支援員）による日本語支援（支援員数53人程度）
支援員：日本語支援経験者、有資格者 等
※資格を有しない者には、県が研修を実施し認定
- 対象市町数 8市町
- 対象校 50校
- 対象児童生徒数 約500人
- 内容
 - ・支援員による日本語初期支援（取り出し）
（児童生徒1人当たり1日2時間程度）

日本語を母語としない生徒も個々の能力を発揮できる教育体制を構築することで、
地域社会の担い手を育成します。【対象校】「重点校」:石下紫峰、結城第一 「支援校」:筑波、荃崎、江戸崎総合、坂東総合、結城第二

1 学校生活の支援体制の構築

【委託先】NPO法人

■外国人生徒支援コーディネーター等の配置

- ・外国人生徒支援コーディネーター（7校3人配置）
学校での稼働時間 延べ631時間
- ・言語スタッフ（母語による相談、支援教材等の作成補助等）
通訳対応日数 延べ197日（9言語へ対応）

■翻訳等支援

- ・各種手続き等の資料翻訳 延べ58件

4 キャリア支援の充実・ノウハウの普及

■外国人生徒支援相談員（教員）の配置 ※重点校2校に各1人

- ・外国人生徒支援のノウハウの蓄積、支援校の校内体制構築の支援 1校自走化

■茨城県外国人材支援センター（県産業戦略部労働政策課）との連携

- ・外国人生徒のインターンシップ保護者向け説明会 2回

【委託先】大学

■キャリア支援

- ・ウェルカムイベント、サマースクール、多言語ワークショップ、先輩トーク等の開催
最大15名の大学院生・学生が支援 年13回 参加生徒数 平均43名

2 学習支援のための個別支援計画の作成支援

【委託先】大学

■日本語能力の把握

- ・日本語アセスメントテスト(DLA)の実施 2校 86人

【委託先】一般財団法人

■日本語指導支援員（専門人材）の派遣

- ・社会的自立に向けたきめ細かな日本語指導 9校に派遣
延べ33クラス191人 計1176時間[会話、作文]評価上昇
- ・JLPT対策講座 5校22人 合格者 N2:4名、N3:2名、N4:6名

3 言語能力に応じた習熟度別学習の実施＜学習支援＞

■習熟度別学習の実施に伴う非常勤講師の配置（県単）

- ・日本語能力等に応じた習熟度別学習
- ・英語が得意な生徒への発展的な学習（ハイレベル英語）

■多文化共生・外国人生徒理解等に係る学校の取組

- ・教員研修の実施 4回（やさしい日本語）
- ・多文化共生に係る行事への参加 2回（地元の祭りへの参加）

《成果指標》

指定校（7校）の外国人対象生徒数 R6 216人→R7 267人

日本語能力が向上した生徒の割合 92.3%

日本語指導支援員派遣 R6 年618時間→ R7 年1176時間

進路の実現

キャリア支援・普及

- ・日本語指導支援員の派遣
- ・外国人生徒支援相談員の配置
→ノウハウの普及
- ・茨城県外国人材支援センターとの連携
→キャリア支援強化

学習支援等

- ・日本語能力把握（アセスメントテスト）
→個別支援計画の策定
- ・日本語能力に応じた習熟度別学習（ハイレベル英語等）
- ・キャリア教育支援

学校生活の支援体制の構築

- ・コーディネーター等の配置
- ・学校、関係機関等が連携したチームとしての支援
- ・校内支援体制強化

入試の拡充（石下紫峰高校、結城第一高校）

- ・外国人生徒特例枠の拡大（2人→40人）
- ・応募資格の緩和